東北3県被災校リポート

校庭で遊ぶことなく卒業も

岩手

岩手県大船渡市の最南端、末崎町にある市立末崎小学校。校庭に仮設住宅が建ち並びます。

校庭は、休み時間や放課後、先生から離れて友情や人間関係を培っていく自治的な時間と空間。子どものなかで問題を解決していける場所。そう考える熊谷拓郎校長は、大切な校庭を使えない悩みを語りました。

体育館や中庭は体を動かすスペースを生み出せますが、児童の体力が落ちているのも心配です。仮設住宅は来年夏には移転する計画です。土の入れ替え作業などで、元に戻るのはさらに先になります。5年生は、校庭に立つことなく卒業する見通しです。

児童152人のうち15人がいまも仮設住宅にいます。うち2人は校庭から通います。移転すれば通学が不便になるし、仮設の人たちにも負担をかけます。「校庭が戻ればいい、というわけではないんです」

財団の援助ではプールのコースロープを買う予定です。「ベルマークには助けられています」と熊谷校長は話しました。

大船渡湾を望む高台にある大船渡市立大船渡中学校の校庭にも仮設住宅があります。入居者が減り、今年2月に駐車場を縮めて小さな「広場」ができました。サッカーゴールを置き、シュート練習はできる広さです。金賢治校長は「生徒は『土の上でできるだけで十分です』と泣かせてくれます」と話します。

休み時間に校舎の周りを走る子どもたち。熊谷校長が見守ります＝大船渡市立末崎小

野球部は毎月半分ほど、市教委のバスで学校から15分ほど離れたグラウンドを借りています。夕方1～2時間の練習ですが、監督の戸羽智英先生は「土の上でできるだけで十分です」と泣かせてくれます」と話します。

借りたグラウンドで練習する大船渡中の野球部。広さがうれしい＝大船渡市内

学校の時間大切／前向き「語り部」

「モチベーションが上がります」。部長の田中友輝君（2年）は「声を思い切り出せてまとまりが出てきました」と話しました。

全校生徒229人の28%が仮設住宅です。金校長は言います。「心がけているのは、全員に震災前に流れていた時間を取り戻してやること。学校に来れば普通があって楽しかったと卒業生にいわれたのはうれしい言葉でした」

10月16日、大船渡中では下方にある大船渡小と合同で、津波を想定した避難訓練をします。震災時は実際、小学校から児童や教職員たちが高台の中学校に逃げ、全員無事でした。「訓練でやってよかったことを確認し、学校として伝え、残していくべきことは日々の営みに入れてつないでいきます」と金校長は話しました。

釜石市立釜石小学校は海から約1キロ離れた高台にあります。震災の日は短縮授業で、地震発生時には当時の児童184人は自宅や公園などにいましたが、全員無事でした。校区の大半は津波浸水予想地域ですが、それまでの防災教育が生きたことで知られています。

毎月11日は「釜小防災の日」です。当時の状況をただひとり知る外舘千春先生によると、低学年は津波・避難場所を知る、中高学年は津波や地震のメカニズム、昔の人の教訓を学ぶといった授業をします。訓練をする時もあります。

紺野仁司校長と校内を歩きました。廊下や昇降口に張ってある「全校ぼうさい安全マップ」が目を引きます。校区の危険な場所を子どもたちの視線で見つけ、注意を促すのです。毎年更新し、6月にまた新しくしました。

児童118人の4分の1が仮設住宅から通います。アパートを借り上げる「みなし仮設」の子もいます。震災後に異動してきた紺野校長は、家が狭くて勉強する場にも困る仮設の子の環境を心配します。紺野校長自身、家を失って仮設住宅で3年過ごした経験からの思いです。

大槌町立大槌学園中学部は仮設校舎です。町では4月から小中一貫教育が始まり、大槌小と大槌中を合わせた新設校「大槌学園」ができました。

新校舎は高台にある大槌高校グラウンドに建設中ですが、完成は来年秋になるため、3年生は仮設校舎しか知らずに卒業します。「でも、彼らは仮設校舎を本当に大切に使っているんですよ」。後藤康副校長は、放課後の掃除に懸命な生徒たちのわきを通りながら話してくれました。

中学部は255人。うち100人近くが町内の仮設住宅からスクールバスで通ってきます。学園の駐車場にはバスが十数台並んでいました。

財団が支援するバス代は、部活動の遠征や他校との交流に出かける際の一部に充てます。

訪問した日は、3年生が長野・軽井沢に出かけていました。震災体験と未来を語る「語り部プロジェクト」です。前向きに、いま何を頑張っているか、町をどうしたいかを自分の言葉で語ります。全国から来訪の要請が続いています。

校庭は小学部との共有です。でも中学部が昼休みに使えるのは水曜日だけ。「すごい勢いで生徒たちは遊ぶんです」と後藤副校長は笑顔でした。

改修終わった校舎へ徐々に

宮城

宮城県石巻市は県東部に位置し、東日本大震災では津波により大きな被害を受けました。

今年5月30日、仙台と石巻を結ぶJR仙石線が、震災から4年2カ月ぶりに全線復旧したのをはじめ、市内では新たなまちづくりが急ピッチで進んでいます。一方で、今なお4797世帯・1万152人が仮設住宅に暮らし、506人の児童、259人の生徒がそこから学校に通っています（そのほかに親戚宅などから通っている児童・生徒が小中学校合計で58人。世帯数・人数は9月1日現在。児童・生徒数は5月1日現在）。

釜小学校では、震災でプール、空調設備、体育館、給湯設備に大きな損害を受けました。震災前664人いた児童は現在435人に減っています。児童の約4分の1は本来の学区外からスクールバス、車での送迎で通っています。スクールバスの発車時間は決まっているため、放課後の学校での活動時間も制限されます。帰っても仮設住宅の外では運動できる場所はあまりありません。

湊小学校は2014年4月、湊第二小学校と統合し、改修が終わった校舎で新たに再開しましたが、地域が壊滅的な被害を受けたことから子どもたちの転出が重なり、現在では213人と元の湊小学校より児童数は少なくなりました。

やはり学区外の仮設住宅からスクールバスなどで通う児童が約1割います。スクールバスに間に合うよう、放課後実施していた校内清掃を昼休みに行っています。

震災後、他校の校舎を間借りしていましたが、昨年改修が終わり元の学校に戻りました。

「震災後、子どもの心のケアが大きな課題になっています。特に高学年の子どもたちは、社会の大変さを感じているようで、担任を含め学校全体で対応しています」と佐々木隆哉校長は話します。

雄勝小仮設校舎（左）と、雄勝中が入っている石巻北高飯野川校舎＝石巻市内

屋上に設置された太陽光パネル。避難所になった時の発電用です＝渡波小

仮設通学800人／小中合同運動会

ベルマークで購入したトランシーバーで話す佐々木校長。他の階と通話します＝湊小

渡波小学校は2014年3月に改修が終わり仮設校舎から戻ってきました。

3月10日には体育館で5、6年生による再開後初の卒業式が行われ、地域の人たちが「お帰りなさい」と書かれた横断幕を持って笑顔いっぱいに出迎えてくれました。

学校の近くのお年寄りが運動会の練習を見学に来たり、通学途中で「おはよう」と気軽に子どもたちに声をかけたりしてくれます。「自前の校庭で遊べるようになり、子どもたちも落ち着いてきました。たくさん遊んで汗をかくと集中力が増し、人の話もよく聞けるようになるようです」と松浦達夫校長は笑顔で話しました。

現在、学校は地域の避難所となり、屋上には停電の場合の発電用にソーラーパネルが設置され、外から屋上にのぼれるよう新たに避難階段も増設されました。11月には地域の避難訓練が行われます。

屋上からは今年3月に完成した、沿岸部での避難のための「大宮町津波避難タワー」が近くに望めます。

石巻市の中央やや北に位置する二俣小学校の校庭の一角に大川小学校の仮設校舎が建っています。プール、体育館などは二俣小のものを借りています。全校で29人の小規模校なので、子どもたちは学年を超えて非常に仲良しです。上級生は下級生の面倒を良く見ています。今年は3人の新入生を迎えました。給食は子ども先生もみんな一緒の教室で食べます。

一方、より切磋琢磨し、広い社会性を身につけるため二俣小と交流も深めています。子どもたちが考えた「大川小と二俣小で心をひとつに最高の運動会を作り上げよう！」のスローガンのもと、二俣小と合同運動会を開催しました。

学校では昨年から防災教育にも力を入れています。学区内のリスクマップをグループに分かれて作成し、授業で実際に出かけ自分の目で確認しました。

雄勝小学校は、北上川の北側、相野谷地区にある石巻北高校飯野川校舎の敷地内に仮設校舎があります。高校の4階には雄勝中学校が間借りしています。高校は定時制なので、日中の校庭は児童がほぼ独占して遊んでいます。

雄勝地区は、水産業が盛んでホタテの養殖や鮭の稚魚の放流などが行われています。また、雄勝硯（おがつすずり）の原料となる玄昌石の産地としても有名です。

現在は、仮設住宅から海に通い漁業で生計を立てている家庭が多くあります。

学校では運動会は小学校、中学校の合同運動会として9月に開催しました。そのため、小・中合同でソーランや、開会式の練習を行いました。

2017年3月には大須小学校と統合して、新しく完成する雄勝地区統合小中学校に移転する予定です。

分別学ぶ「出前授業」いかが

キヤノンMJが小学校募集

小学4～6年生を対象に分別を学ぶ「環境出前授業」を催している協賛会社のキヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ、ベルマーク番号19）が、今年度中に「出前」する小学校を募集しています。

授業は90分間です。限りある地球資源を守るために、ゴミを減らすことと資源を繰り返し使うことの大切さを学びます。3R（リユース、リデュース、リサイクル）が必要であることも知ってもらい、キヤノングループの環境への取り組みにも理解を深めてもらいます。

プリンターの消耗品であるトナーカートリッジのリサイクルを例に、リサイクルには分別が重要であること、理科で学習する「ものの特徴（磁石につく、重さ、大きさ）」を利用して分別すると便利であること、などを知ってもらいます。

座学の後は分別実験に挑戦です。混ざりあった材料（鉄、発泡スチロール、プラスチック2種類）を磁石や水、ふるいなどを使って分別してみます。実験の後は、ビデオでキヤノンのリサイクル工場を「見学」してもらい、実験で体験した分別方法が実際のリサイクルで利用されていることを伝えます。

◇

問い合わせ・申し込みはキヤノンMJのCSR本部商品環境推進グループ（03・6719・9207）までどうぞ。

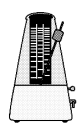
予算に応じてこんな品物があります

2万円前後

紙芝居・人形劇舞台
モップハンガー
パソコンラック
踏み切り板
生垣バリカン
掃除機
会議用テーブル
世界地図
ラミネーター
ボール入れかご
トランシーバー
メガホン
ベルマーク整理ケース
移動式低鉄棒
優勝カップ
シュレッダー

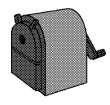
1万円前後

オーブントースター
電気保温ポット
DVDプレーヤー
黒板ふきクリーナー
ストップウオッチ
スチームアイロン
カラーコーン
CDラジカセ
紅白幕
一輪車
ハードル
ライン引き
壁掛け扇風機
手押一輪車
ホッピング
パイプ椅子
折り紙製造機
巻尺



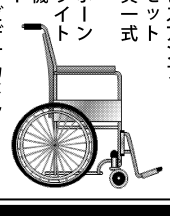
5千円前後

温湿度計
長縄
メトロノーム
空気入れ
ピアニカ
ごみ箱
トロフィー
卓上木琴
雑巾スタンド
体育館用モップ
電動鉛筆削り
手動鉛筆削り
ボディボール
得点板
掛け時計
カラーリング
譜面台
さすまた
充電ラジオ



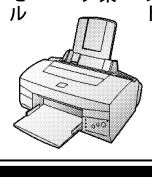
千～3千円前後

ストップウオッチ
キッチンタイマー
竹馬
ゲームベスト
テープカッター
卓球ラケット
とびなわ
万国旗
学童用白衣
バドミントンセット
ドッヂビー
手動鉛筆削り
かるた・百人一首
リコーダー
メモリーカード
ボール類
ビート板
けん玉
防犯ブザー
書籍
防災頭巾
防災用ヘルメット
リレーバトン



7～11万円前後

車いす
トロンボーン
フットライト
綿菓子機
リヤカー
デジタルビデオカメラ
電気芝刈機
フルート
ひな段収納キャリー
書画カメラ
ユニット型電子黒板
茶道用具一式
卓球台セット
ワイヤレスアンプ
紙折機
スポーツタイマー
アコーディオン
跳び箱
ティンパニー
立奏木琴
相撲マット
テレビ
テレビピアノ
電子ピアノ
スポットエアコン
教材提示装置
集会用テント
冷蔵庫
屋外用大型時計
絵本整理棚
プールフロア



6万円前後

ユニット型電子黒板
ミュージックベル
マーチングドラム
ハイビジョンテレビ
全自動洗濯機
逆上り補助器
冷蔵庫
配膳台
コーンゴール
AVテーブル
タイムカプセル
ピアニカ
空気入れ
ごみ箱
トロフィー
卓上木琴
雑巾スタンド
体育館用モップ
電動鉛筆削り
手動鉛筆削り
ボディボール
得点板
掛け時計
カラーリング
譜面台
さすまた
充電ラジオ
ホッピング
パイプ椅子
折り紙製造機
巻尺
ハードル
一輪車
ライン引き
壁掛け扇風機
手押一輪車
ごみ箱
ピアニカ
空気入れ
メトロノーム
長縄
温湿度計
ストップウオッチ
カラーコーン
スチームアイロン
踏み切り板
ボール入れかご
ラミネーター
会議用テーブル
世界地図
ベルマーク整理ケース
ホワイトボード
かんたんテント
ソファ
スチール書架
ファクシミリ
複製画
展示板
望遠鏡
トランペット
ミシン
エンジンブロワ
サッカーゴール
プリンター
ハイビジョンテレビ
マーチングドラム
ミュージックベル
ユニット型電子黒板
ベルマーク整理棚
電子レンジ
ボールキャリー
大型絵本シアターワゴン
デジタルビデオカメラ
デジタルカメラ
プリンター
クラシックギター
ロッカー
顕微鏡
逆上り補助器
せいろセット
ベルマーク整理棚
竹馬収納ラック

5万円前後